



特定非営利活動法人 なんとなくの にわ 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



報徳会館の玄関脇に咲いています。

「居場所」4年目を迎えて

「子どもの居場所・なんとなくの にわ」が3年目の活動を終え、新たな4年目をむかえることになりました。みなさまのご援助、ご協力に感謝いたします。

2006年度後半、「居場所」に関わるふたりの中学生が不登校から一歩を踏み出したことは、私たちを力づけてくれました。今春、中学校を卒業したAさん(男子)は、いくつもの選択肢の中から技術を身につけるとい進路を選び、第3学年の後半、その目標に向けて学習に取り組むことができました。Bさん(女子)は報徳今市振興会館のゆったりとした雰囲気の中で、のびのびと活動しました。「居場所」のスタッフが中学校へボランティアサポートに出かけていることもあり、中学校と「居場所」を往復しながら、スタッフとの交流を通じて多くのことを学び、自分の将来を考える準備ができたのではと思います。

この1年、「居場所」のスタッフとして子どもたちを支えた若者たちにも大きな変化がありました。20代の若者たちは、親や周囲の人たちに誘われて報徳振興会館にやって来ました。次第に雰囲気に慣れ、うち解けてくるにしたがって、「もっと子どもたちに関わってみたい」と、スタッフとして子どもたちに接するようになりました。宇都宮で昨年秋に開催された、「不登校・ひきこもりシンポジウム inとちぎ」、「ワカモノフェスタ」などのイベントに参加し、運営にも積極的に関わるなど、多くの人たちと接する機会を持ちました。その中で自分自身を表現する力も付いてきたようです。若者達はいまや「居場所」に無くてはならない存在です。「居場所」がこのような変化を生み出したことを、ここに

記しておきたいと思います。

この1年で「居場所」に通う子どもたちが、前の年度に比べて大きく増えたとは言えません。「居場所」の情報が、不登校の子どもたちの家庭にまだまだ届いていないと私たちは考えています。新しい年度は、地域における認知度を上げることに、いっそうの力を入れてきたいと思えます。具体的には、チラシ、通信の内容を見直し、全部の小学生中学生を持つ家庭に配布する イベント等で積極的に宣伝を行う 会を紹介するために、年表・Q&Aを整備する などを考えています。これ以外にも、いろいろなアイデアがあるはずで、会員の皆様のご意見を遠慮なくお寄せ下さい。

居場所の運営、発達障がい支援、相談事業などをさらに充実させていくために、これらを支える収益事業、ネットワークの活用などを、会員とともに、また学校や教育委員会と協力しながら進めていく所存です。新しい年度も、私たちの活動にご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。(運営スタッフ一同)

「子どもの居場所・なんとなくの にわ」の記録

開設日数：90日

利用者数：120名(小中学生の延べ人数)

相談件数：37件

子どもたち以外の訪問者数：142名

行事：卓球、ボーリング、スケートなど、自分たちでプログラムを考え、楽しみました。

目次

「居場所」4年目を迎えて	1
「なんにわ」って何?	2
サイエンス・カフェ雑感	3
活動日誌	3
発達障がい支援連絡会	4
行事案内・入会のお願い	4

居場所のひとこま

居場所はじめての「卒業生」。めでたく中学校卒業の3月、スタッフの若者たちがプレゼントを贈りました。それを聞いて、胸が熱くなったのは年のせいだろうか。テレビの収録で、カマドがきれいになり、煙突も修理されました。お昼ご飯、ここで炊けるかなあ。





子どもの居場所 Q & A

なんとなくのにわ を紹介します



「なんとなくのにわ」って？

「不登校の子どもたちの居場所」のニックネームです。学校に通うことを強制せず、子どもたちに寄り添いながら、子どもたちの多様な生き方を応援できたらと始めました。ちょっと長いし、何をやっているところなのかわからないので、改称の話も出ましたが、子どもたちの「この名前がいいよ」という声でそのままになりました。子どもたちは「なんにわ」と詰めて呼んでいます。

どんなふうに使ったの？

「子どもの立場で考え、親が交流できる場所があったら」、「学校以外のもうひとつの学びの場を作りたい」と考える大人たちが2004年6月に始めた「なんとなくのにわ」という会が運営しています。2005年2月にはNPO法人を取得し、今市市教委(当時)のバックアップで2005年4月からは週2回、現在と同じ体制で居場所を開いています。

どんな人たちが関わっているの？

不登校の子を持つ親、発達障がいの子を持つ親、保育士、小学校や高等学校教員経験者など、「不登校」に関心を持つ人たちがスタッフです。また、はじめは見学等で参加していた若者たちが力を付け、スタッフとして積極的に運営に関わっています。

どこでやってるの？

今市民活動支援センター隣の「報徳今市振興会館」に開設しています。いくつかの部屋で、読書をしたりゲームをしたりして過ごすことができます。まず子どもたちに必要なのは、登校を強制されず、自分をゆっくり見つめ直す時間。報徳会館の歴史ある建物と静かな環境は、そんな目的にぴったりです。

毎週 火・金曜日(午前10時～午後4時)
祝日は休み(夏休みは金曜日のみ開きます)

費用: 3,000円/月

はじめの1ヶ月は無料

昼食は持参または実費でお願いします

見学自由です。

ホームページもご覧下さい。

<http://www.nantonakuno.net/>

連絡先: 080-5514-2631 (手塚)

0288-22-0990 (西尾)

メール: info@nantonakuno.net

火・金曜日は 0288-21-3517 (報徳今市振興会館)

子育ての悩みは？

相談は無料です。昨年度は延べ37件の相談を受けました。不登校の理由は子どもによって一人ひとり違います。開設の間、相談を受け付けていますので、どうぞお気軽に声をかけてください。見学も歓迎します。

費用は？

「居場所」はNPO法人「なんとなくのにわ」会員からの会費(4ページ)と日光市教育委員会からの補助金で運営されています。継続して利用される方からは月3千円の利用料をいただきます。会に入るかどうかは自由です。



イラスト: Numata

イベント案内 (詳細はお問い合わせください)

- 5月3日(木・祝日) 午前11時30分から
泉福寺 「八十八ヶ所まつり」にてバザー実施
- 5月12日(土) 午後2時 日光市民活動支援センター
第3回 定期総会
- 5月26日(土) サイエンス・カフェ(第8回)
川むしたんけん隊(協力:今市の水を守る市民の会)
午後10時より、田川にて
- 6月16日(土) サイエンス・カフェ(第9回)
蝶の話

サイエンス・カフェ 雑感

「なにわ サイエンス・カフェ」は昨年春から「なんとなくのにな」が始めた事業です。「科学を話題にお茶でもいかが」という「サイエンス・カフェ」のアイデアは、私たちのオリジナルではありません。科学の面白さをもっと一般に発信したいと、あちこちの大学や研究所が取り組んでいる、近頃流行のイベントです。

言い出しっぺの私は、最初に作った案内に、「私たちもこの流行に乗り、好きな音楽の話をするように、スポーツを話題にするように、気軽に科学について話すことのできる場をこの日光市に作りたい」と書きました。予備知識無しの人が集まって、科学のある分野のテーマであれこれ話ができたら面白い。その場で理解し、納得のいくように、「科学についての世間話を楽しむ」といった雰囲気を作れたらというのが「サイエンス・カフェ」なのです。

私たちの周囲は科学の生み出したものでいっぱいです。携帯電話ひとつ取り出してみても、液晶、CCDカメラ、ソフトウェアの組込技術、音声や画像のデジタル化、電波による通信、バッテリー、精密な金型、プラスチック加工技術、コンピュータネットワーク、データベースなどなど、現在進行形の科学技術がてんこ盛り。これを一人の人間がすべてを理解することはとても難しい。けれど、「わ

からないから」と思わずに、その「不思議さ」を楽しんでしまおうと考えれば、そんなに科学の話も堅苦しいものではないはずです。

2月は私が講師をやることになり、宇宙の話をしました。「子ども向け」のつもりだったのですが、大人の方も10人ほど参加され、小学校2年生から大人までを対象に話すという、私にとって初めての体験になりました。最近パソコンやプロジェクタを使って、話しながら映像を見せるといふ、「現代紙芝居」が簡単に作れ、イメージを伝えやすくなりました。とはいっても、たとえば、銀河系の中で恒星どうしはどれくらい離れているかという話に、小学校2年生と大人が同じ印象を持つとは思えません。むしろ、それぞれの年齢や経験や知識に応じて違ってよいのでは、その違いをその場で楽しんでしまうことができれば、もっと面白いのではないかと...。そんなことを考えさせられた「カフェ」でした。

3月は千葉市にある「放射線総合医学研究所」で医療用加速器の研究を行っている金澤さん(主任研究員)に放射線治療の現状について話していただきました。物理の専門的な質問から、治療にかかる費用まで、豊富な内容で盛り上がりました。

昨年6月から今年の3月まで、あわせて7回実施し、講師と参加者が気軽に交流する雰囲気が作れたように思います。本年度も、子どもたちに楽しい科学実験などを紹介する集まり、また大人向けにちょっと興味深い科学の話題を提供する場として、「サイエンス・カフェ」を開催します。講師の推薦、自薦など、大歓迎です。みなさま方の積極的な参加をお願いします。(サイエンス・カフェ担当 手塚)
* 昨年、講師をつとめていただいた湯澤光男さん(若松原中学校・教諭)が「強い静電気を発電できる手回し式起電機」を使った実験で、創意工夫ある理科教育に贈られる「東理科教育賞」を受賞されました。おめでとうございます。



写真:第7回・炭素イオンビームによるガン治療の話(3月24日)

活動日誌

- 1月 6日(土) 理事会(第13回)
- 1月21日(日) ベリー会(吉成)
- 1月22日(月) 発達障がい支援者連絡会(第13回)
- 2月 5日(月) 県央・県西地区学校支援ボランティアメッセ(白井)
- 2月13日(火) 「居場所」卓球
- 2月17日(土) 日光市子どもの居場所づくり実行委視察研修(吉成)
- 2月23日(金) 「居場所」お茶会
- 2月24日(土) なんにわ・サイエンス・カフェ(第6回)
- 2月25日(日) ベリー会(吉成)
- 2月26日(月) 発達障がい支援者連絡会(第13回)
- 3月 3日(土) 理事会(第14回)
- 3月24日(土) ワカモノフェスタ準備会(沼尾、吉成)
- 3月24日(土) なんにわ・サイエンス・カフェ(第7回)
- 3月25日(日) ベリー会(吉成、沼尾)
- 3月26日(月) 発達障がい支援者連絡会(第14回)
- 4月 7日(土) 花見会(報徳今市振興会館)
NPO雑草、NPO草むらと合同

花見会にて(4月7日) 支援センターにて昼食のウナギを焼く



花見会から10日後の報徳会館の桜...やっと満開に

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒 321-1261 日光市今市 378

電話/Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください

<http://www.nantonakuno.net/>



私たちの活動目的：

今市市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業：

子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援

教育についての相談や情報提供活動

学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動

自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

発達障がい支援者連絡会：見学会のレポートより

栃木 福祉トータルサポートセンター

栃木市保健福祉部が運営するセンターは、従来の制度優先・期間優先から「人優先」と考え方を転換し、社会福祉課、児童福祉課、高齢福祉課、介護保険課の事業を「福祉総合窓口」として一本化した、新しい試みです。市長の発案、前々回の選挙公約だったそうです。当事者を中心とし、その人のライフステージにあわせて、相談、コーディネート、支援を一元的に展開。「医療」「保健」「福祉」「教育」等の部門や機関にとらわれず、一貫性のある支援体制で、「そこに行けば支援を受けられる」、市民にとって使いやすい制度だと感じました。

鹿沼市教育研究所

鹿沼市情報センター内にあります。教育相談について、担当の方に伺いました。「相談内容は親の了解を得ずに学校に連絡することはしない。学校へのアドバイスやカンファレンスを実施する。学校と親、必要に応じて医療機関や行政とも連携し、親が納得するまでコーディネートする。学校に対しても積極的にアドバイスする」という立場で相談事業が行われています。他に、啓発、教師向け・学校ボランティア向けの研修会、調査活動など多くの事業を行っています。福祉関係、社会教育担当課などとの横の連携が今後の課題ということでした。

「発達障がい支援者連絡会」は、発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。それぞれの立場での意見や悩み、助言などの意見交換、他地域の先進的な取り組みの紹介もあります。どなたでも参加自由の会です。気軽にご参加ください。(西尾・白井)

連絡先：日光市民活動支援センター (電話：0288-22-2271)

現在の会員数

正会員 32

賛助会員 12

団体会員 3

入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円

団体 10,000円

会員の継続をよろしく願います。

なんとなくのへや

子どもたちが小学生の頃、日曜日の夕食の後、よく家族でゲームをやった。それはトランプだったり、花札だったり、麻雀だったり、流行り廃りがあった 麻雀を始めたばかりのとき、私は少し手加減をした。なにしろ小学生2人とかみさんが相手だ。学生の頃はよくアパートの友人とやっていたから、あまり負けない程度には強かったし、点数計算も

できた。子どもたちがあの複雑なルールをどうやって覚えたのか、いま考えると不思議に思うけれど、半年も経つうちにだんだん長男が強くなり、二男もそれなりになってきた、こちらも手を抜けなくなった。かみさんは淡々と打つ。長男は割と強気で攻め、二男は控えめだがたまに大勝ちするタイプ。それぞれの個性が出、「カドにドラあり」とか、無意味な麻雀格言を飛ばしあって笑いあったことが懐かしい 子どもたちは暇さえあればテレビゲームをやっていた。それでも日曜夜の麻雀大会はなぜか続いて、長男が中学生になった頃、いつの間にかやらなくなった。誰が始めようと言ったのか覚えていないし、やらなくなったきっかけも、とくべつなことはなかったような気がする 家族そろってゲームなどできる時間はほんとうに短いし、そんな時間は戻ってこない。ただ冗談を言い合いながら麻雀をやっていただけなので、他人に勧められるようなことでもない。家族としてそこにいた4人が楽しい時間を過ごした。もう十数年も前のことなのだけれど、なぜか私の記憶には強く残っている。(T)